

令和7年度 白山市市民提案型まちづくり支援事業 活動紹介 ①

事業名	「あの響きを忘れない！」～虫送り太鼓を通じた地域活性化事業～【新規】
団体名	柏野青年会
活動地区	柏野地区

活動紹介（事業の概要）

柏野地区では、「虫送り太鼓」の継承と世代間交流を目的に、子ども用長太鼓の購入や練習会・集中講座を実施しました。地域の小学生約20名のうち半数にあたる10名が参加し、本番や秋フェスティバルで堂々と演奏を披露しました。市長にも観覧いただくなど、地域全体で伝統文化を盛り上げ、子どもたちが行事の見学者から担い手へと成長しました。この度の事業を通じ、青年会・子供会・地域団体による連携体制が強化され、伝統を次世代へつなぐ仕組みを構築できたことは、非常に大きな成果となりました。

【活動内容】

- ①柏野地区「虫送り太鼓」活動内容
 - ・子ども向け練習環境の整備 子ども用長太鼓の購入
- ②青年会メンバーを講師とした練習会の実施
 - ・夏休み集中講座の開催
- ③発表機会の提供
 - ・「虫送り太鼓」本番での演奏披露、地域イベント「秋フェスティバル」での発表
- ④運営体制の構築・連携
 - ・青年会、子供会、地域団体による連携体制の構築と強化
- ⑤伝統文化の普及・周知
 - ・地域行事への参加を通じた、子どもたちの見学者から担い手への意識変革
 - ・地域イベントにおける市長への演奏披露を通じた、対外的な活動の認知拡大



小学生 練習会風景



「秋フェスティバル」での発表

事業名	出城ジオの歴史、文化、地理を未来に残すプロジェクト【継続3年目】
団体名	出城郷土学びの会
活動地区	出城地区

活動紹介（事業の概要）

出城地区では、地域の歴史・文化・地理を次世代へ継承するため、総合的な取り組みを展開しました。具体的には、「出城ふるさと巡り」として案内板を16箇所を設置し、スマートフォンで解説を読むQRコードを導入することで、誰もが手軽に郷土を学べる仕組みを作りました。また、遊びを通じて防災意識を高める「でじろ防災すごろく」を制作し、ワークショップや大会を開催することで、大人から子どもまで多世代が地域と防災について語り合う場を創出しました。さらに、郷土誌「つなぐ出城」を活用し、小学校での出張授業やジオ文化講座を継続実施しました。考古学や歴史をテーマにした専門的な講座から、地域の民話伝承まで幅広く網羅することで、住民の知識向上を図りました。

【活動内容】

- ①出城ふるさと巡り案内板設置
 - ・出城ジオマップの見どころに案内板16箇所を設置
 - ・三次元コードで案内板の紹介文が表示される
- ②防災すごろく作成
 - ・7/26（土）防災すごろく作りワークショップ（ゴールは避難施設）
 - ・12/6（土）出城の学び★防災すごろく大会 60人参加
- ③出城周辺のジオ文化学習と出城文化講座
 - ・4/26 第7回出城ジオ講座 つなぐ出城紹介
 - ・11/16 第8回出城ジオ講座 出城ふるさとと考古学
 - ・3/14 第9回出城ジオ講座 出城郷土研究発表会
- ④郷土誌「つなぐ出城」を使用したふるさと学び開催
 - ・出城文化講座にて郷土誌「つなぐ出城」の紹介
 - ・蕪城小学校へ郷土誌「つなぐ出城」提供
 - ・蕪城小学校にて出張お話し会（ジオ総合学習への協力）4回実施

郷土誌小冊子
「つなぐ出城」



でじろ防災すごろく

12/6（土）10時～13時
すごろく&もちつき

出城の学び★防災 すごろく大会

10:00～11:30

参加者募集！（9:45～受付）

子ども～大人、50名様まで

（小学2年生以上の児童参加可）

ご家族・お友達・ご近所さんをお誘いください

入賞者には、お米、野菜等のお楽しみプレゼントです



事業名	郷地区住民による地区防災活動の実践と地区内外への防災情報の発信【継続3年目】
団体名	郷地区防災委員会
活動地区	郷地区
活動紹介（事業の概要）	

郷地区では、住民の防災意識向上と自主防災体制の強化を目指し、継続的な啓発活動と実践的な訓練を行いました。月刊ニュースの発行やホームページでの情報発信に加え、イオンモール白山との共催による防災フェスティバルの初開催や、町会ごとの自主避難場所開設訓練を実施しました。特に訓練では、安否確認から人形劇を用いた防災学習まで各町会で連携して取り組むことで、住民の関心を高めることができました。3年間の継続的な活動の結果、地区防災計画の実践が着実に定着し、町会単位での防災組織設立が進むなど、運用体制の制度化・体系化という大きな成果を上げることができました。

【活動内容】

①継続的な防災啓発活動

- ・月刊「防災委員会ニュース」の発行と配布
- ・ホームページを通じた防災活動の情報発信

②町会防災組織の設立・運用支援

- ・各町会における防災委員会設立の支援（専福寺町が新たに設立）

③体験型防災イベント・フェスティバルの開催

- ・イオンモール白山との共催による「防災フェスティバル」の実施
- ・家具転倒防止ワークショップ、防災スマホ教室、各種防災ゲーム等の実施
- ・地域コミュニティイベントへの防災展示ブース出展

④実践的な防災訓練の実施（各町会にて）

- ・第1部：地震災害時の安否確認訓練（戸別訪問等の状況把握）
- ・第2部：自主避難場所開設訓練（高齢者向け）
防災人形劇（おたま劇場）や防災クイズを用いた啓発活動の実施

◆イオンモール白山防災フェスタ



■郷地区防災講演会

◆郷地区防災講演会



7月26日に郷地区防災講演会が開催されました。配布資料はこちらです。40名余りが参加され、防災に関するノウハウを学ぶことができました。「災害時のトイレ対策」や「食料備蓄の知恵」でより具体的なやり方を学ぶことができました。



事業名	千代野地区防災計画 【新規】
団体名	千代野地区防災委員会
活動地区	千代野地区

活動紹介（事業の概要）

千代野地区では、地区の特性に即した「千代野地区防災計画」冊子を3,000部作成し、全戸配布いたしました。編集過程での委員会による精査は監修者からも高く評価され、在宅避難等の啓発ツールとして確かな手応えを得ています。また、研修会での事例発表や新年総会を通じた防災委員による説明により、住民間の連携も深まりました。本冊子を軸とした防災意識のさらなる向上と、他地域へも水平展開が期待できる防災計画となりました。

【活動内容】

①防災冊子の作成・発行

- ・「千代野地区防災計画」冊子（A4カラー36ページ）を3,000部発行。
千代野地区全世帯へ配布（2,030部）

- ・残部（970部）は要望に応じ、個人・団体へ順次提供

②研修会の実施・参加

- ・町内会長・役員向け研修会の開催（参加者計44名）
- ・石川県主催スキルアップ研修会における取り組み事例発表（8月31日）

③啓発・周知活動

- ・令和8年新年総会（16町内会）にて防災委員による説明および啓発活動を実施

事業名	おついたち美術館プロジェクト【継続3年目】
団体名	おついたち美術館実行委員会
活動地区	鶴来地区

活動紹介（事業の概要）

この事業では、旧鶴来第一保育所を拠点としつつ、寺院や酒蔵等のサテライト会場を設けたアートイベントを開催しました。企画段階から地域団体や高校、行政等と連携し、コミュニティ醸成を図るとともに地域内回遊を促進しました。学生主導で高度な運営を行い、延べ1,500名が参加。清掃・改装により旧保育所の環境整備も進みました。また、学生と地域住民の交流は祭りの手伝いにまで広がり、若手との協働による地域活性化の輪が着実に拡大しています。年度末には活動記録としてアートブックを制作し、一連の成果を次年度へと繋げる体制を整えました。

【活動内容】

- ①アートイベントの開催（2025年9月）
 - ・旧鶴来第一保育所ほか4か所（寺院、酒蔵、織物工場等）のサテライト会場を設置
 - ・プロアーティストや学生等、計11名が参加しアート展示やワークショップを実施
 - ・3日間で延べ約1,500名が来場し、地域内回遊を促進
- ②地域連携とコミュニティ醸成
 - ・まちづくり団体、高校、商工会、行政等と連携したテーマの策定
- ③旧保育所の活用と環境整備
 - ・施設活用に向けた清掃・改装の実施（園庭・プール清掃、体育館の整理・活用）
- ④学生主体の運営・関係人口の拡大
 - ・大学生（約10名）による企画・運営・管理の主体的な実施
- ⑤広報・記録活動
 - ・地域の魅力を伝える活動として、年度末にアートブックを制作

アートブック

子どもたちもアートにチャレンジ



事業名	令和7年度獅子吼高原再生プロジェクト【新規】
団体名	獅子吼高原再生プロジェクト
活動地区	一ノ宮地区

活動紹介（事業の概要）

本プロジェクトでは、獅子吼高原の再生を目指し、産官学連携のもと「山の図書館」の開設と連続ワークショップを行いました。大学生と制作した木製本棚には住民から300冊以上の図書が寄贈され、親子で絵本を楽しむ新たな交流の場が誕生しました。しよりの配布数は200枚を超え、多くの利用者に親しまれています。また、計3回のワークショップには延べ約40名が参加し、伝統文化や廃材を活用したアート制作を通じて獅子吼高原へ足を運ぶ機会を創出しました。市民提案型まちづくり支援事業以前からの活動を含めた継続的な活動により地域コミュニティの輪も着実に広がり、協力者が増加しており高原再生への確かな手応えを得る成果となりました。

【活動内容】

- ①大学生との協働・施設整備
 - ・東京科学大学生10名が計20日間、設計案の検討から木製本棚の制作
- ②図書館開設・運営実績
 - ・開設記念イベントに来場者約50名
 - ・住民からの図書寄贈数が300冊を超え、地域一体の図書館づくりを実現
- ③ワークショップ・イベント実績
 - ・連続ワークショップを計3回実施し、毎回定員を満たす延べ約40名の参加を記録
 - ・地域内から講師を公募することで、住民主導のコンテンツ提供体制を確立

本棚ワークショップ参加者



日常の利用の様子



本棚ワークショップ参加者



日常の利用の様子



※本棚ワークショップは、非同期で随時参加可能なように設計し、利用されていた

事業名	みんなでつながるOne upの日 【新規】
団体名	ママケアOne up～きまっし白山～
活動地区	笠間地区

活動紹介（事業の概要）

本団体では、産前産後のケア普及と多世代交流を目的に、計8回のイベントを開催しました。7月の「ママケアマルシェ（来場100名）」を皮切りに、家族向けイベントや「みんなでつながるOneupの日」などを通じ、心身のリフレッシュや世代間交流の場を創出しました。特に全イベントで託児スタッフを配置したことで、母親が自身と向き合う時間を確保し、高い満足度を得られました。

12月のファミリーフェスタには250名が来場し、夫婦で育児を考えるきっかけも提供できました。各回を通じ、地域住民との絆や育児支援のネットワークを広げることができ、孤立を防ぐコミュニティとして確かな手応えを得る成果となりました。

【活動内容】

①開催実績・集客

- ・7/4のマルシェではチラシ100枚を配布し100名が来場
- ・12/6のフェスタでは市内小中学校への「tetoru」配信等で250名を動員
- ・「Oneupの日」および「ママケアOneupの日」を計6回（隔月）開催

②プログラム構成・運営体制

- ・チェアヨガや発酵食クッキングを通じ、多世代交流の場を創出
- ・毎回託児スタッフを配置し、保護者がリフレッシュできる環境を整備
- ・外部講師を招いたお話を通じ、夫婦間のコミュニケーション促進を図る
- ・縁日やワークショップを組み込み、家族で楽しめる複合型イベントを企画

ママケアマルシェ 「ママケアOneupの日」



12月 クリスマスフェスタ



事業名	林くん・中ちゃんの林中お散歩【新規】
団体名	林中まちづくり委員会
活動地区	林中地区

林中まちづくり委員会では、住民交流と地域活動への参加促進を目的に、林中文化祭と連動した回遊型イベントを開催しました。地区の子供たちから公募したオリジナルマスコットで親しみやすい環境を整え、店舗・家庭・文化団体を巡るスタンプラリーを実施。全戸配布したマップは高い回遊性を生み、文化祭会場の入場者は約615名を記録しました。ビンゴ大会を閉会間際に配置したことで最後まで賑わいを維持し、多世代が地域を散策する機会を創出しました。アトリエ解放や商店の参加など予想以上の広がりも見せ、各世帯が地域の魅力を再発見する契機となりました。次年度へ繋がるコミュニティの活性化と、市民協働への参加意識を高める実りある初開催となりました。

【活動内容】

①広報・啓発活動の展開

- ・スタンプラリーMAPはA3両面2,000部を制作し、全戸配布
- ・ガレージセール参加者募集チラシはA4判1,300部を全戸配布
- ・マスコットキャラクターの公募には15子供会から58件の応募があり、優秀賞2体・佳作8体を選出

②運営上の工夫と効果

- ・登り旗30枚を設置し、スタンプラリーのポイントを目視的に明確化
- ・商店5店舗、一般家庭2件、私有アトリエ1カ所と多様なポイントを網羅
- ・文化祭会場の防災展示ブースにて、スリッパ作り体験などを通じた啓発を実施



金城大学短期大学部様
打合せ風景



今平町地内 告知案内



林中コミセン玄関



ラリー当日 軽体育館駐車場



入賞児童表彰



文化祭 防災コーナー



RASTIC様 風景



水引、リードコーナー



ビンゴ会場



採用された 林くん 中ちゃん

事業名	「湊地区防災計画策定の推進事業」【新規】
団体名	湊自主防災会
活動地区	湊地区

活動紹介（事業の概要）

湊自主防災会では、令和7年度に地区防災計画策定に向けた研修会や防災フェスタを開催し、液状化・長周期地震動実験や避難所運営の検証を行いました。特に避難所運営訓練では、非常発電設備の運用課題や暑さ対策などの実用的なデータを得ることができました。また、全世帯への啓発資料配布に加え、社協や民生委員、区長会と連携し、各町内会での説明会を通じて防災意識の向上を図りました。愛媛大学との協力により「地域活動への防災要素の内包」という重要な視点も共有し、住民の約15.5%に直接情報を届けるなど、地区全体の防災体制強化に向けた基盤を大きく前進させることができました。

【活動内容】

①研修会の実施・参加

- ・8月23・24日みなと防災フェスタ2025を開催し2日間で199名が防災体験や避難所設営訓練に参加
- ・10月12日：第2回湊地区防災計画勉強会を実施し防災情報等を参加者と共有
- ・11月：津波・水害・通電火災対策をまとめた説明資料を全世帯分（1,000部）印刷し各町会へ配布

②啓発・周知活動

- ・1月22日：民生委員・福祉協力員対象の研修会を開催、交代時期に合わせ40名（参加率68%）へ周知
- ・12月～1月：各町内会へ「想定災害・通電火災」の出張説明をし、422名へ啓発
- ・3月25日：令和7年度湊地区防災計画進捗報告会を開催し、区長会や関係団体ら27名で成果を総括



防災フェスタ2025 液状化実験



避難所での宿泊体験



想定災害・通電火災 出張説明

事業名	地域でつくる防災への提言「まず・これ！」【新規】
団体名	吉野谷コミュニティ
活動地区	吉野谷地区

活動紹介（事業の概要）

吉野谷地区では、住民が主体となって地域独自の防災対策を構築するため、「地区防災を考える会」を設立しました。地区在住の防災士やコミュニティ福祉防災部会と連携し、共通の備えに加え、各町会特有の課題を反映した「独自プラン」を策定。これらをまとめた提言カード「まず・これ！」と安否確認セット（約400セット）全戸配布しました。

活動を通じて、住民一人ひとりが地域の防災に目を向け、避難名簿の作成や訓練の実施など、具体的な備えを見える化できたことは大きな成果です。また、防災士が知識を活かして組織的に活動できる体制が整い、部会の活性化にも繋がりました。

【活動内容】

①地区防災活動の整備

- ・吉野谷地区在住の防災士・部会委員による「地区防災を考える会」を設立
- ・各町会共通の基礎対策と、地域特性を反映した「独自プラン」を策定
- ・住民の行動を明確化する提言カード「まず・これ！」を制作
- ・安否シート・防災名札を含む防災啓発パッケージ（約400セット）を全戸配布

②広報活動

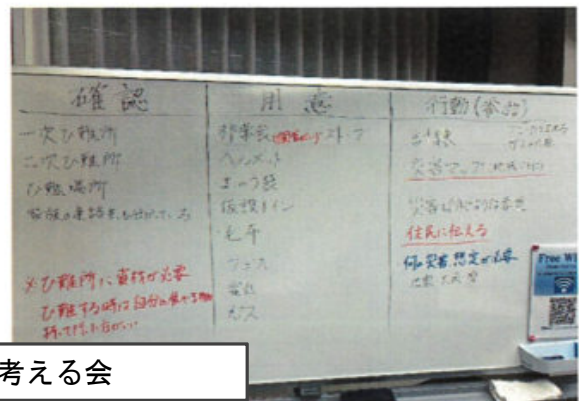
- ・広報誌やコミュニティ公式LINEによる防災情報の発信
- ・各町会総会等にてパッケージの活用方法や防災の重要性を直接説明

③避難防災体制の確認と構築

- ・避難状況の迅速な把握に向けた各町会の避難名簿作成・整備
- ・消火活動等の防災訓練実施と、活動振り返りによる継続体制の構築



地区防災を考える会



安否シート・防災名札 防災啓発パッケージ



提言カード「まず・これ！」

事業名	～生かす（健やか）活かす（資源）イカス（素敵）～ふるさと再発見・住民大交流事業【新規】
団体名	吉野谷文化協会
活動地区	吉野谷地区

活動紹介（事業の概要）

吉野谷地区では、コミュニティ再生を目指し、旧村時代の貴重な記録映像（8mmフィルム・ビデオ）のデジタル化と動画編集事業を実施しました。劣化が進む映像を後世に残すべく、村史に基づき字幕や解説を加えたことで、耳の遠い高齢者にも伝わりやすい内容に仕上げました。完成した動画は敬老会や文化祭、地区の会合等で上映し、延べ約630名の住民が鑑賞しました。昔の活動映像を見た住民同士が往時を懐かしみ語り合う姿は、孤立感の解消や地域の一体感醸成に大きく寄与しました。地域の歴史をデジタルデータとして確実に継承し、住民が改めてふるさとの良さを再認識する貴重な機会となりました。

【活動内容】

①記録映像のデジタル化、編集

- ・7月1日：記録映像のデジタル化に着手
- ・10月上旬：映像を基に、村史を活用した字幕・説明文付き動画編集が完了

②交流事業

- ・開催時敬老会（約100名）や文化祭（約300名）、地区行事（約150名）などへ積極的に参画し、地域住民の交流の場として映像上映を実施。コミュニティ組織の役員会やクリスマス会を含め、延べ約630名の参加者が視聴
- ・各会合で順次上映を行い、住民が地域活動の歴史を語り合う機会を創出

DVD 変換



DVD 貸出用



住民大交流事業



令和7年度 白山市市民提案型まちづくり支援事業 活動紹介 ⑫

事業名	みかわを観る・覧る・診るおかえり祭りナビプロジェクト ～「美川おかえり祭り」当日のみどころ・ルート案内まっぷ作成～【継続2年目】
団体名	美川まちづくり協議会
活動地区	美川地区
活動紹介（事業の概要）	

美川コミュニティでは、地域資源である「美川おかえり祭り」や「北前船」の文化・歴史を学び、その魅力を伝えるルート案内マップを3,000部制作・配布しました。昨年は西ルートを作成し、本年は東ルートのマップを作成しました。マップは地域の学校教育や観光振興に活用され、伝統文化の継承と地域活性化に大きく寄与しました。特に本事業では、若い世代や青年団の意欲的な参加により地域理解が深まり、石川県立図書館からも注目されるなど、広域的な発信も実現しました。地域学習資料やイベント説明資料としても有効活用され、美川まちづくり協議会が掲げる「歴史を紡ぎ、学びを育み、笑顔で永く住み続けられるまち」の実現に向けて、住民の誇りと絆を深める確かな成果を上げることができました

【活動内容】

- ①文化資源の調査・学習
 - ・北前船や美川おかえり祭りの歴史・文化に関する勉強会の実施
 - ・加賀市文化課との連携による調査・研究
- ②ルート案内マップの制作と周知
 - ・おかえり祭りの神典、台車、巡行ルート（東ルート）を網羅したマップの作成
 - ・3,000枚の印刷および美川地区内外（観光地、駅、施設等）への配布
- ③地域・教育連携の推進
 - ・美川地域3小学校における総合的な学習や地域学習での資料活用
 - ・美川おかえり祭り実行委員会への説明と協力体制の構築
- ④情報発信の強化
 - ・石川県立図書館との連携による、地域文化の県内への広報・発信活動



おかえり祭り東ルート案内マップ



美川小3年生 ふるさと学習 美川おかえり祭り ルートマップ活用

事業名	飛び出し事故0（ゼロ）を目指す めぐりん&あみ こども見守り隊【新規】
団体名	たちはたコミュニティ協議会
活動地区	館畑地区

活動紹介（事業の概要）

館畑地区では、子どもたちの交通安全意識向上を目指し、「めぐりん&あみこども見守り隊」看板60個を製作し、各学校や幼稚園、地区内危険箇所へ設置しました。キャラクター活用により地域への愛着と安全意識の浸透を図り、事故ゼロの環境づくりに努めました。また、地域の名所を巡り危険箇所を確認する「たちはたみてあるき」を開催し、住民と専門委員あわせて約70名が参加。次年度の設置場所提案など、住民主体での防犯活動を促進しました。さらに、新デザインのキャラクターシールを配布し、子どもたちの関心を高めました。

【活動内容】

- ①看板製作・設置
 - ・地区内の危険箇所や学校・園・町内会等へ、「こども見守り隊」看板60個設置
- ②「みてあるき」の実施
 - ・町内の名所旧跡を巡り危険箇所を再確認する事業を開催
 - ・幼児から大人まで総勢70名で地域文化学習及び地域防災を学習
- ③地域への展開・啓発
 - ・「こども見守り隊」の新たな設置箇所について具体的な提案を募集
 - ・交通安全・防災の新デザインシールを製作し、文化展覧会来場者に配布



めぐりん&あみこども見守り隊 看板設置の様子



「みてあるき」 当日の様子